学びの体験楽しく

美深高と高養校が交流授業

【美深】美深高校（大谷健介校長）と美深高等養護学校（大泉直哉校長）による交流授業が12日、美深高等養護学校で行われ、両校の1、2年生が一緒に学びながら交流を楽しんだ。

この取り組みは、両校交流事業の一環で今年度で6年目を迎える。6月にも同事業に関連し、美深高校で同校ボランティア部局と美深高養農業科3年生による花の苗の植え付け作業が行われた。

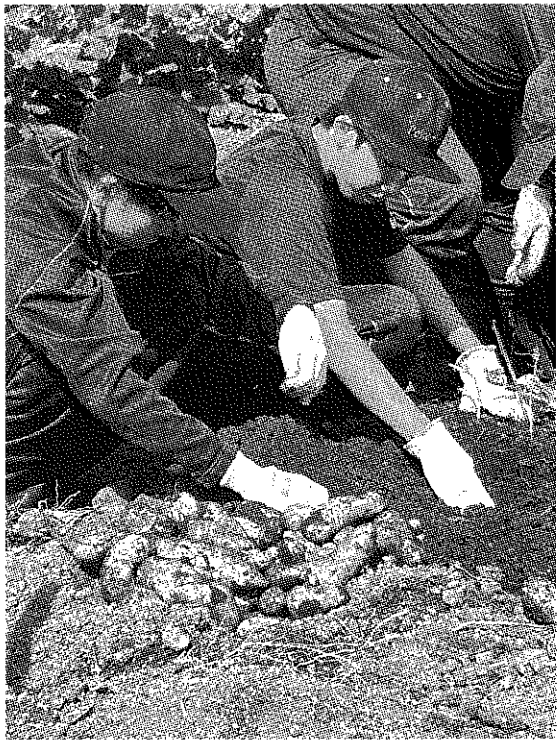
今回の交流授業では、事前に美深高校の生徒が美深高養の木工科、工業科、被服デザイン科、農業科、食品デザイン科の5学科から希望する授業を選択し、美深高養の生徒が日ごろの経験と学びを生かして美深高校の生徒に助言や指導を行った。

今回の交流授業では、木工科はコースター作り。工業科はコンクリートの型枠外しや溶接の体験。被服デザイン科は2年生がスマホスタンド、1年生がオリジナルのふきんの製作。農業科は畑でジャガイモの収穫体験。食品デザイン科では2年生がイタリアのパン作り、1年生が牛乳パックを材料にした紙すきの体験がそれぞれ行われた。

この日の交流を通じ、美深高校の生徒は「普段できないことを体験できたこと、そして養護学校の皆さんの実習に向かう姿勢がとても勉強になった」と話し、美深高養の生徒からは「他校の生徒と話せる機会はめったにないので、とても良い経験になった」という声が聞かれた。

交流事業はこのあと、10月に3年生同士によるディベート交流授業が美深高校で行われる予定だ。

（安積祥紀）



ジャガイモの収穫を体験する生徒たち